

## AED:電源、寿命間近 バッテリー交換呼び掛け - - 厚労省

全国の駅や公共施設などに約20万台設置され、緊急時に心臓へ電気ショックを与える自動体外式除細動器(AED)の多くがバッテリーなどの使用期限に近付いているとして、厚生労働省は16日、都道府県やメーカーを通じ、設置者に点検と部品交換を進めるよう通知した。

AEDは04年7月に一般市民の使用が解禁され、06年に約4万6000台、07年に約5万9000台が新たに設置された。厚労省によると、バッテリーと胸に密着させる電極パッドが2～4年程度で使えなくなり、本体のインジケーターに使用不可の表示が出るが、普及に伴って保守方法が分からず点検をしていない例が増えているという。

通知では、設置者が点検担当者を決め、インジケーターを日常的に確認するとともに、不具合情報などが迅速に伝わるようメーカーに設置場所を登録するよう求めている。パッドは1万～2万円、バッテリーは5万円前後で交換できる。【清水健二】

### 【関連記事】

[医療費:65～74歳の窓口負担 厚労省が2割に統一検討](#)

[メタボ健診:非肥満でも危険大 厚労省研究班が大規模調査](#)

[社会保障カード:報告書案を了承 厚労省検討会](#)